

# 学習の手引

## (1) 始業及び終業の時刻

1. 各時限は以下のとおりとする。

1 時限目 9 : 20 ~ 10 : 50

2 時限目 11 : 00 ~ 12 : 30

3 時限目 13 : 15 ~ 14 : 45

4 時限目 14 : 55 ~ 16 : 25

ホームルームは 9 : 15 ~ 掃除は、14 : 45 ~ または 16 : 25 ~

2. 前項の始業及び終業の時刻については、校長が必要であると認める場合は、変更することができる。

## (2) 学習に対する心構え

1. 授業が学習の中心であるという認識に立って、向上心を持って授業に臨むこと。
2. 授業内容は、その日のうちに確実に理解するように努めること。
3. 疑問点があれば、自分自身で解決する努力をするとともに、教員や学友に積極的に質問すること。
4. 各学科で目標とする検定の合格・資格の取得に向けて、家庭学習（予習、復習）を計画的に行うこと。
5. 与えられた課題は必ず指定された日時までに提出すること。

## (3) 単位制

1. 学習の成果を単位として認定し、その修得状況を進級・卒業に対する基準とする。
2. 学生各自が自覚を持ち、進級・卒業に必要な単位数と現在の状況とを把握し、計画的に単位修得に努めなければならない。
3. 進級・卒業要件を満たしていても、通常の時間割に設定されている科目については履修しなければならない。

## (4) 科目の種類

通常の時間割の中で実施される科目について次のように分類する。

教養科目：対象となる学生全員が履修する科目

必修科目：対象となる学生全員が履修する科目

選択必修科目：いくつかの選択肢の中から選択して履修する科目。

対象となる学生全員が必ずいずれかを履修する科目

選択科目：希望する学生のみが履修する科目

## (5) 成績評価

1. 各科目において授業終了後に修了試験を実施する。
2. 「演習」等で修了試験実施が困難な科目では、課題で代替する場合がある。
3. 「実習」科目については、実習先からの実習成績評価票に基づき、総合的に成績評価を行う。
4. 成績評価は、秀、優、良、可、不可の 5 段階とし可以上を合格とする。合格した科目について単位を認定する。
5. 修了試験
  - a. 各科目において出席率が 80% 以上のものは、修了試験を受験することができる。
  - b. 修了試験の結果のほか、必要に応じて確認テスト、模擬テスト、レポートをもとに総合的な評価を行い、100 点を満点とする成績評価点を算出する。
  - c. 成績評価は、成績評価点により次の基準に従って決定する。
    - 秀一科目に対する理解度及び日常の学習状況が特に優秀な者（90 点以上）
    - 優一科目に対する理解度及び日常の学習状況が優秀な者（80 点以上）
    - 良一科目に対する理解度及び日常の学習状況が良好な者（70 点以上 80 点未満）
    - 可一科目に対する理解度及び日常の学習状況がやや劣る者（60 点以上 70 点未満）
    - 不可一科目に対する理解度及び日常の学習状況が著しく劣る者（60 点未満）
6. 追試験
  - a. 公欠（学則第 24 条）もしくは、病気等のやむを得ない事由（第三者により証明できる物の提出が必要）で修了試験を受験できなかった者は、校長の許可を得たうえで追試験を受けることができる。
  - b. この場合、事前もしくは試験当日連絡をし、かつ当該試験の終了後 3 日以内に医師の診断書または理由書等の証明書を添付した場合に限る。
  - c. 追試験の受験を希望する者は、追試験願を提出し受験許可を求める。
  - d. 追試験後の評価は、修了試験と同様とする。
7. 再試験
  - a. 修了試験における成績評価が不可の者、出席率が 80% 未満の者、または追試験に該当しない事

由で修了試験を欠席した者は、必要に応じて補習授業を受けたのち、次項の手続きを経て再試験を受けることができる。

- b. 再試験の受験を希望する場合は、定められた期日までに再試験願（再試験受験票）を提出し、受験料（1,000円）を事務局に納入する。やむを得ない理由がある場合を除き、定められた期日までに再試験願の提出および受験料の納入がない場合は再試験の受験資格を失い、当該科目は未履修とする。
- c. 再試験受験後、再試験の結果のほか、必要に応じて授業中に実施した確認テスト、模擬テスト、レポート等をもとに総合的な評価を行い、100点を満点とする再試験評価点を算出する。
- d. 再試験による成績評価は、再試験評価点が60点を可、60点未満を不可とする。
- e. 追試験に該当する事由で再試験を欠席した者は、追試験と同様の手続きを経て、別の期日に再試験を受験することができる。
- f. 追試験に該当しない事由で再試験を欠席した者は不可とする。

#### 8. 補習授業

- a. 出席率が80%未満のものは、出席率80%以上とみなせるよう不足時間数に応じた補習授業を再試験までに受けることとする。ただし、補習授業は授業数には組み入れず、出席率には反映しない。
- b. 成績不良により再試験を受けるものは、当該科目担当者の指定する補習授業を再試験までに受けることとする。補習授業数は総授業数の20%を目安とし、科目の特性に応じて科目担当者が決定する。
- c. 補習授業を受けるものは、事前に補習願の提出と、1単位時間（45分）相当分あたり500円の補習授業料を事前に納入することとする。
- d. 補習授業の実施方法は、対面授業、レポート提出、課題制作、ビデオ学習など、科目の特性に応じて科目担当者が指定する。1単位時間に相当する補習授業の分量も合わせて科目担当者が指定する。
- e. 出席率の不良が判明した時点で、その時点で確定している不足数に相当する補習授業を開始することができる。

#### 9. 成績表

各期末に、成績評価（未履修を含む）及び学外実習状況、資格・検定試験受験状況を成績表として、保護者に郵送する。

#### 10. 学外での実習

- a. 保育実習、施設実習、教育実習など学外での実習については、事前指導を受講し、頭髪、服装、態度を整えて実習に臨むこと。
- b. 事前指導の受講が不十分もしくは、頭髪、服装、態度などが実習に適さないと判断される場合、または、実習開始後、実習先より実習継続が困難であると判断された場合は、実習を延期もしくは中止することがある。この場合、当該科目の評価は不可とする。
- c. 前項により不可となったものは、追加の指導を受けたのち再試験扱いで再実習を受けることができる。ただし、実習先の都合などで再実習を実施できない場合もあるので留意すること。

### (6) 進級・卒業・留年

#### 1. 進級条件

教育課程表に示される当該学年で修得すべき科目の全てにおいて可以上の成績を修めた者は当該学年末までに職員会議を経て校長が進級を認定する。ただし学費その他の納入について滞納のある場合はこの限りではない。科目の開講時期の変更が生じた場合はその変更を勘案する。

#### 2. 卒業条件

教育課程表に示される卒業要件を満たしたものは、当該学年末までに職員会議を経て校長が卒業を認定する。ただし学費その他の納入について滞納のある場合はこの限りではない。

#### 3. 留年

当該学年末までに、進級、卒業が認定されない者は留年とする。ただし、学費その他の納入について滞納のある場合は学則にもとづき除籍とすることがある。

### (7) 試験に対する注意事項

1. 試験は厳正な態度で受験しなければならない。もし不正な行為があれば、その期における受験科目を全て不可評価とし、職員会議を経て校長が懲戒する。
2. 指定された席に正しく着席し、特に許可のない限り筆記用具以外は決して試験場に持込まない。
3. 受験の際、筆記用具等物品の貸借は厳禁とする。
4. 答案は試験場を退出する時必ず提出すること。また、試験放棄は厳禁する。
5. 試験場に入場した者は、試験開始後30分間、並びに試験終了前10分間は原則として退場を許可しな

い。遅刻者は、原則として試験開始後 10 分を経過した場合は受験できない。

6. 試験中は学生証を提示する。忘れた場合は事務局で仮学生証の発行を受けること。提示しない場合は受験できない。

(8) 出席率

各科目につき次式により出席率を算出する。

$$\text{出席率} = (\text{授業時数} - \text{欠課時数}) / \text{授業時数}$$

$$\text{授業時数} = \text{総授業時数} - \text{公欠時数}$$

授業時数：実際に実施された授業時間数。

欠課時数：欠席、遅刻、早退を合計した時間数。遅刻、早退はそれぞれ 0.5 時間として計算する。授業時間の 1/3 を超える遅刻および早退は欠席として扱う。

(9) 学費その他の納入について

1. 授業料、その他学費、教材費等については指定された日までに納入すること。
2. 入学金、授業料、教材費などの納付金について未納がある場合、卒業・進級・退学・転学は認められない。

【補足】GPA (グレード・ポイント・アベレージ) 制度について

- ①GP (グレード・ポイント) は、秀、優、良、可、不可評価の各評価に対し、4、3、2、1、0 の順に付与する。
- ②GPA (グレード・ポイント・アベレージ) は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

$$\text{GPA} = \frac{\text{【履修科目の単位数} \times \text{GP】の合計}}{\text{履修した科目の総単位数}}$$

$$\text{GPA} = (4 \times \text{「秀」単位数} + 3 \times \text{「優」単位数} + 2 \times \text{「良」単位数} + 1 \times \text{「可」単位数} + 0 \times \text{「不可」単位数}) \div \text{履修登録単位数}$$

$$( \text{秀の単位} 3 \times 4 ) + ( \text{優の単位} 5 \times 3 ) + ( \text{良の単位} 4 \times 2 ) + ( \text{可の単位} 6 \times 1 ) \div 18 = 2.3$$

※小数点第 2 位は四捨五入  
つまり「2.3」が GPA となります。

- ④学年 GPA 学年毎に算出される GPA をいう。
- ⑤通算 GPA 在学中の全学期を通じて算出される GPA をいう。
- ⑥学年 GPA や通算 GPA は、学内における評価や就職活動に使用することがある。